

主な記事

高分子化学巡礼の旅……1頁
 蚕糸業の甞生策〔その1〕……5頁
 アウガスチヌ、桐生義……8頁
 文君の死
 パナマ運河……9頁
 泥を吐く……10頁
 会員の近況……11頁

千曲會報

昭和32年3月1日発行
 長野県上田市常入
 信州大学繊維学部内
 編集兼発行人 小山長雄
 信州大学繊維学部内
 発行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円

高分子化学巡礼の旅

呉 祐 吉

早いもので、皆様方の御心厚い御見送りに感謝致しながら千曲川辺を発つて、高分子化学の巡礼の旅にのぼりましたのも早や一か年前の事になりました。

高分子化学国際シンポジウム

昨年春4月3日から9日までイスラエルに於きまして、「国際純正および応用化学連合」(IU PAC)と同国のワイツマン科学研究所との共催で「高分子化学国際シンポジウム」が開催され、20数か国から約200人の代表が参加致しました。はじめの4日間の(3~6日)は同国レホヴオットにあるワイツマン科学研究所の新装なつた講堂(Wixauditorium)で、又あとの8、9両日はエルサレムのヘブリュー大学の講堂で開催されました。

今回のシンポジウムは高分子電解質の挙動と生体膠質および合成ポリペプチドに関する研究が主題でありました。私もかねてから絹糸フィブロインと比較しながら蛋白質類似合成ポリペプチドの研究をやつて居りましたのではからずも今回の会議に日本代表の一人として参加致すことになりました。

ワイツマン科学研究所では高分子電解質の物理化学的研究で世界的に著名な Aharon Katchalsky 教授が高分子研究部を主宰して居り、その実弟の Ephraim Katchalsky 教授が生物物理学研究室を指導して居ります。兄弟相携えて合成ポリペプチドの研究を実に活潑に、又系統的に、然も最新の研究方法を駆使して進めて居りますので、私にとりましては、絹の構造とその凝固機構に関して、討論を進めます為にならぬ恵まれた機会でありました。

次に今回のシンポジウムで発表討議された多くの問題のうちで特に興味深かつたものを二三御紹介して見ますと、(1)アイソタクチックポリマー (2)グラフト及びブロックポリマー (3)高分子螺旋構造 (4)核蛋白の高分子的構造 (5)放射線照射による高分子の研究、等でありまして、既に皆様御承知の高

分子化学の最も新しい研究領域に関するものであります。

(1)アイソタクチックポリマー

肝心のチーグラー教授(ドイツ)とナッタ教授(イタリア)が出席しませんでしたので、いささか張り合いぬけの形でありましたがニューヨーク、ブルックリン大学のマルク教授は総合講演の時にはアイソタクチックポリスチレンの試料を提示したり、ハイフア工科大学に於ける講演会ではアルキル金属不均一系触媒の製法に就て解説をしたり、この問題に対する一般の大きな期待に答えるべく孤軍奮闘の形でありました。



吾々人間の作り得る触媒も漸くその内部に有機化学的構造を持つものが出来、セルローゼや蛋白の様に立体的に規則正しい高分子が重合出来る段階に達した訳であります。

然し現在迄のところこの様な立体特異性触媒の見出されている単量体はすべて炭化水素系のビニル化合物で、この他にはプロピレンオキサイドが有るだけであります。何れはポリヴィニールアセテート、従つてポリヴィニールアルコール、或はポリ塩化ヴィニール等一般のヴィニール化合物に関してもアイソタクチックポリマーが重合合成される時が来るのでありましょう。

(2)グラフト及びブロックポリマー

この問題に対しましてはベルギーのスメッツ教授等の有機化学的合成方法によるもの、或はメルヴィル教授の光重合によるもの、或は機械的な鎖状分子崩壊によるフリーラジカル生成の方法等が有りますが今回のシンポジウムでは主として放射線照射によるグラフトポリマーの合成が活潑に発表討議されました。

(3)高分子螺旋構造

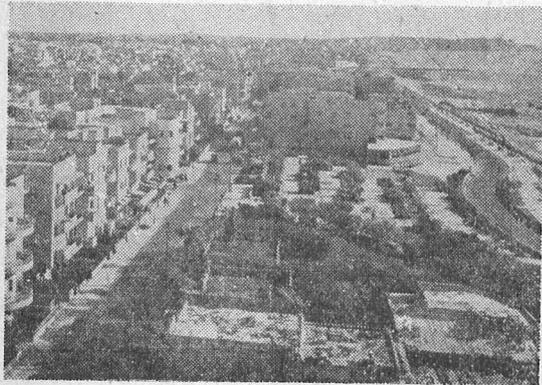
御承知の如くポーリング教授によつて羊毛ケラチン分子に就いて螺旋構造が推定されて居ります。又英国コートールド

研究所のパムフォード一派によつて、合成ポリLアラニン（柞蚕絹と同じX線図を示す）が螺旋構造をもとり得る事がX線的に議論されていますが、今回のシンポジウムで特に興味を引きましたのはポリグルタミン酸が溶液中でPHの調節によつて random coil \leftrightarrow helical coil の転換をすると云う Doty (マルク代読) の発表でありました。

(5)核蛋白の高分子的構造

今回のシンポジウムの主題のうちで最も生命現象に関係の深い高分子として核蛋白の構造究明に関する発表が相当の数にのぼりました。

ケンブリッジの J, B, Watson の核酸の構造に関する総合報告では Crick と共同で提出した helix モデルに就て興味



近代都市 テル・アヴィヴ

深い説明があり、DNA にプロタミンの結合したものと、チャルスキーの合成したポリリジンを結合せしめたものは、X線図的に区別が出来ないと云う注目すべき結果が報告され又酸素による核酸それ自身の合成の試みも誠に興味深いものでありました。

(6)放射線照射による高分子の研究

原子力の平和利用の一つとして強力放射線を高分子物質に照射してその性質を改変する研究は最も先端のものと言えましょう。一般に放射線の高分子物質に対する作用は、(1)架橋反応、(2)崩解反応、(3)重合反応、に区別されますが、架橋反応による改変は既にポリエチレンの場合には工業化され、普通ならば 110°C で熔融してしまうものが遙かに高い融点を示すやうになり過熱蒸気消毒にも堪えるようになる訳であります。

生ゴムを照射すれば硫黄も熱も不要で、加硫と同じ効果が得られる訳でありますから、照射量丈の調節で任意のヤング率のゴムが出来ると云う事になります。架橋反応で今回特に興味深く思いましたのは英国のチャールズビーの研究であり

まして、ポリヴィニールアルコールの水溶液を照射する事によつてゲル化を起し得る事でもあります。出来上つた繊維ばかりで無く、紡糸工程への応用も考えられる訳であります。

次に架橋反応を起し得るような場合若し他の単量体を共存させて置きますと、グラフトポリマーが形成されます。例えて申しますと、ポリステロールの鎖状分子の幹にポリアクリルニトリルの枝が何本もついた様な化合物が出来るとあります。この反応を応用して実に沢山の新しい化合物が造られその性質が報告されました。

又分解型のポリマーに同様の反応を起させれば今度はブロック型のポリマーが得られます。将来は、セルローゼ分子と蛋白分子の結合した様な高分子化合物もおめみえる事でしょう。

エネルギーの開発にもまして大きな役割を、高分子化学は原子力の平和利用に対して、になっている訳であります。

イスラエルと云う国

この半年ばかり、イスラエルと云う小さな國が中近東問題の発火点として新聞やラジオで報導され、相当関心をお持ちの方も有ると思われますので、僅か一か月の滞在ではありましたが第一印象の如きものを述べさせて載せましょう。

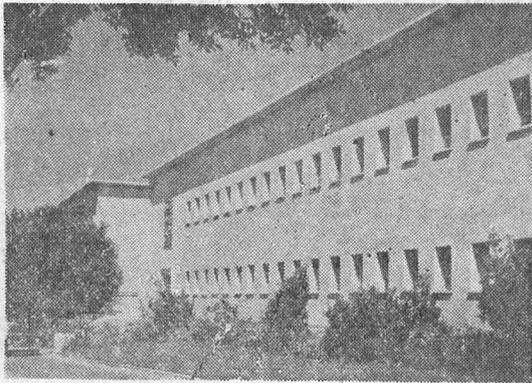
国際学術会議としての行事が終りましてから、あと数班に分れて旧約聖書時代からの古い遺跡と又極めて近代的な新国家建設のイスラエルの姿を見学する機会が我々参加者に与えられました。

イスラエルと云う国は東洋から見ますればアジア大陸の西の端に位し、西洋から見れば地中海の東の端の海岸に位する、その大きと云いましても吾国の四国よりもやゝ大きい位で、人口も僅か 160万人位の世界の小國の中の一員であります。緯度から申しますと九州の南部に相当して居り、レバノン、シリア、ジョルダン、エジプト等のアラブ諸國にとり囲まれて居ります。アラブ諸國との紛争の為に日本から飛行機で参りますにもアラブ諸國の上空を飛んで直接イスラエルに這入る事は許されませんので、東京から約40時間かゝつて一度イタリアのローマ迄飛び再び地中海上を引返してイスラエルのテルアヴィヴの飛行場へ着陸すると云う訳であります。

日本を出ます時はイスラエルはエジプトのすぐ北に接して居りますから、非常に暑いに違いない、アラビヤ砂漠の一部位にしか考えて居りませんでした。ところが、飛行機がテルアヴィヴの上空にさしかゝりますと、炎熱の砂漠とはうつつ変つて緑の耕地が広々と翼下に展開して参りました。この國の気候は冬の間が雨期で、11月から4月までの間に僅か5~60

日の降雨日がある事で、植物の生長に一番大切な太陽のエネルギーが十分にそまがれる期間は完全な乾期となつて、一滴の雨も降らないのであります。ことに5月の半ばごろからはアラブ諸国の砂漠の上を吹いて来る「ハムシーン」と云う熱風がこの國を見舞い始めます。でありますから近代イスラエル國家が建設された1948年以前には文字通りこの國の大部分は砂漠であつた訳であります。

一寸この國の歴史をふりかえつて見ますと、ユダヤ人の祖先がメソポタミヤからこの地に移りましたのは紀元前20世紀



ワイツマン科学研究所

頃といわれて居ります。その後イスラエルの数分族がエジプトに移住しましたが、紀元前13世紀頃モーゼに率いられたユダヤ人達がエジプトを脱出して再び母國にもどる為、シナイ砂漠や、ネゲブ砂漠に40年もさまよつた事は旧約聖書に出ていることであります。ユダヤ王國の黄金時代は紀元前10世紀頃のダビデや、ソロモンの時代でありました。紀元前8世紀～前6世紀にかけて滅ぼされてしまい、それ以来前國の支配下に置かれ、紀元135年、ローマ帝國に対する反乱に失敗して以来ユダヤ人は母國を追放され、永い間祖國の無い民族として他の國々に、迫害と忍従と放浪の生活を続けて参つたのであります。

然し乍ら旧約聖書の予言を信ずるユダヤ人達は、こゝパレスチナの土地に彼等の祖國を再建すべく、1948年の独立宣言以来、世界各国から潮の様に帰還して来たのであります。そして彼等の根強い信仰と近代科学の力と、そして世界中に基盤を持つ絶大な経済力とを駆使して、「砂漠を緑野へ」と云う私共から考えますと不可能事に近い大事業を開始したのであります。

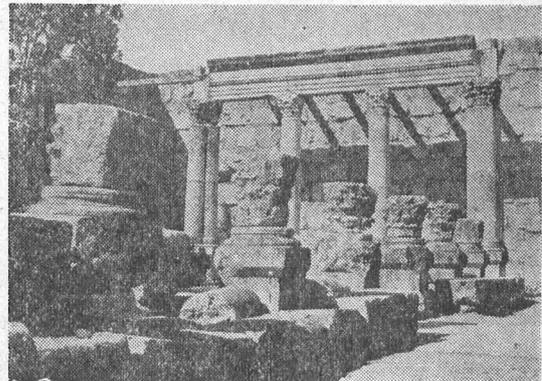
國中至るところの丘陵の頂には大きな水のタンクが築かれて居ります。そしてヨルダン河を始め河の水や地下水が機械力によつて、こゝに汲み上げられ、太いメインパイプによつ

て丘陵の下まで導かれます。こゝまでの費用は國家負担であります。こゝから各自の畑までは個人の費用によつて導かれ、クルクルまわる自動撒水管によつて広大な耕地のすべてに終日水が撒かれていますと云う訳であります。かくして昔の砂漠は緑野と化したのであります。そこに与えるべき肥料を何処に彼等は求めているかと申しますと、御承知の「死海」の沿岸に近代的な加工場を建設して、カリ肥料、磷酸肥料石灰肥料等この國のすべての肥料は自給し得るに至つて居ります。「死海」を転じて「生命の海」と化し得た事は彼等の大きな誇りの一つでありまして、彼等の科学的勝利でもあります。

この國の初代の大統領はワイツマン博士で、ノーベル化学賞の受賞者であると同時に卓越した政治家でありました。開國当初からの彼の伝統を承け継いで科学的基礎の上に立つた政治が新國家建設の為に活潑に進められて居ります。

然もモーゼに率いられて彼等の祖先が40年間も砂漠にさまよつた苦難創生の時代を忘れない為、毎週土曜、日曜は、ふくらまし粉の這入っていない鹿せんべいの様な粗末なものを國中が食べて居ります。信仰を深め、その団結心を温める事を忘れて居りません。

誠に「信念と科学と経済」の三者が揃えば、砂漠を緑野に化する事も可能であると云う事を目のあたりに見る事が出ました事は私にとりましては大きな幸でありました。



古き時代の遺跡(カペナウム)

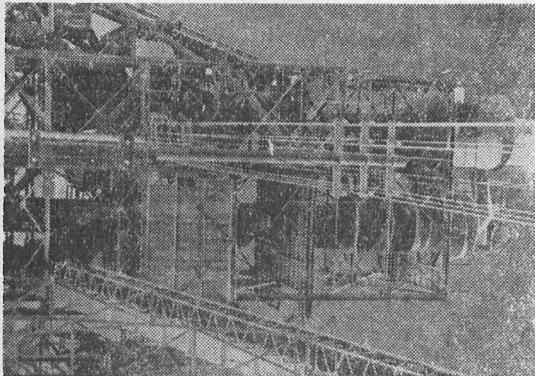
25年ぶりでヨーロッパへ

高分子國際シンポジウムでの任務も済ませ、excursionも終りましてから約1ヶ月、私はレホヴォットのワイツマン科学研究所にとまつてさゝやかな Lectures 等を致して居りました。研究所の両方チャルスキー先生を始め、若い研究員の人達と得がたき discussion の機会に恵まれました。そして5月の始めから英國をふり出しに25年ぶりで、実に久々で

歐洲の諸研究機関を訪れる事になりました。

学問的には絹糸形成の基礎的の問題であります「機械的変性」(Mechanical Denaturation) と云う高分子物質としなくても特異の現象に関しまして、この問題に関係の有る各国の研究者達と膝を交えて、出来得る限りいき込んだ討論を進めて見度いと云う強い願望を抱いて居りました。

然し、何と云つても今から25年前、高分子化学が漸くその体系を整え始めつゝありました当時の歐洲の学界で、懇ろな指導を仰ぎました恩師やその教室を久々で御尋ねし、又同じ研究室で親しく交わりました異国の旧き友と、当時の想出を語り、その後の高分子化学のめざましい発展に就て語り合うと云う機会が眼前に恵まれた事は、私と致しましては、



”死海”沿岸のカリ工場

親や兄弟に久々であろうにも似た大きな喜びでありました。

ベルリンの当時のカイザー・ウイルヘルム繊維化学研究所のヘルツォグ先生は、他界されて既に久しく、ベルリンダーレムの研究所は昔と変らぬ美しい静かな環境の中にあります。星は移り人は去つて、今昔の感にたえません。当時X線の研究を共にしたクラトキー博士は、現在オーストリアグラーツ大学の教授として、X線小角散乱の研究を活躍に展開して居りますので、グラーツの大学に博士を尋ねて久々に当時の思い出を語り、絹糸フィブロインのコロイド状態のX線小角散乱による研究結果に就てその所信をきく事が出来ました。

ハイデルベルグではフロイデンベルグ先生を久々に御訪ねしました。その春70才の誕生を迎えられました。益々御元気で、リグニン合成の大きな研究を昔と変らぬ情熱を以て進めて居られます。又ここに出来た新しい研究所では、ツァーン教授が熱心に絹や羊毛の蛋白構造の研究を進めて居ります。そこのコロキウムでは、2, 3時間、話しをさせられ、誠に有益な討論を交える事が出来ました。

チーグラー教授やクーン教授は皆、当時ハイデルベルグの化学教室でフロイデンベルグ研究室の助教授組でありました。御承知の如く夫々高分子化学と高分子物理の歴史の上に最も輝かしい功績を残され、現在では夫々ミュールハイムのマックスプランク石炭研究所長とスイスパーゼル大学の総長の地位にあつて、ポリエチレンの常圧重合或はゲルの構造に関して益々活潑な研究を進めて居られました。

ジュネーヴのEcole de chimieは私にとりましては、ポリペプチドの研究を始めました最も忘れ得ぬところでありましたが、K. H. Meyer教授も今はなく、今回の国際シンポジウムでも、先生と席を共に出来なかつたのが、最も悲しみでありました。

僅か三か月でありましたので充分落ちついて各国の研究機関を巡る事は出来ませんでした。大いに強行軍をして研究室は40ばかり、討論を交えた研究者の数も70万人にのぼりました。

高分子化学一般に渉る見学もさることながら、絹フィブロインの機械的変性の機構を高分子化学の立場から如何に解明するかと云う問題は私にとりましては20数年の課題でありました。

先年は本学部の講堂で行われました全国的絹のシンポジウムで、又昨年はイスラエルで開催された国際高分子化学シンポジウムの機会に、そして又それにひき続き歐洲各国の研究者達との膝を交えての討議の御陰で、私の年来の問題も漸く解決の時が来たようであります。その詳細は學術雑誌に順次発表して御批判を御願ひするつもりで居ります。

ここに簡単に今回の海外出張の御報告を申し上げて、皆様方の御厚情に御礼申し上げる次第であります。

(信州大学 繊維学部教授 工学博士)

一日一言より

ダーウィン: これほど多くの証拠があつては、人類と他の動物とが共通のものから進化したものであることをどうしても認めざるをえない。この断定に異議をとねるのは、もつぱら私たちの生来の偏見と、また私たちの先祖が神に近いものから出たととなえた慢心のためである。けれども、人類と他の哺乳類との体制や発育を熟知する博物学者でありながら、なお、それらがおのおの別々に創造されたと信じたのは実にふしぎなことだ、と考えられる時代が来るのも遠くはなからう。

(人類の由来)

蚕 糸 業 の 誕 生 策 【その1】

日本蚕糸絹業協会の創立と日本シルクセンターの設置について(提唱)

蚕糸業委員会幹事長 唐 沢 正 平

は し が き

私は昨年2月「アジア蚕業技術開発協会と日本シルク・センターの構想」を発表した。

4月 アジア協会に蚕糸業委員会が創立され日本蚕糸業技術者が、アジア各国の経済技術の開発に協力することが公認された。然し乍ら世間には之を見て、アジアの蚕糸業開発を援助すれば、その「はねかえり」によつて、日本の蚕糸業が遺滅すると考えるもの、即ち庇を貸して母屋をとられると心配する人があると聞く。

このことは杞憂にすぎぬが一理あることで、現在の儘で放置してはならぬと考える。そこでその対応策として、大いに日本の蚕糸絹業の改善発展を期することが必要である。茲に於て速かに関係者官民一致協力して一つの機関を創り、此の目的達成の推進母体としたいと言うのが私の日本シルク・センターに関する構想である。今回蚕糸業に理解ある井出農相の出現を見たので、此の際、急速に之を実現したいと思ひ去る1月10日 農相に進言したのが本草案である。

提案を急いだので文章や字句が、充分推敲出来なかつたが意のあることを御察察願ひ得れば幸甚である。

日本蚕糸絹業協会の創立に就いて

要 旨

◎現在絹及其の加工品の輸出数量は年々幾分宛増加の傾向にはあるが日本蚕糸業の将来の繁栄を期するには、従来の如く生糸の輸出を図ると共に絹の輸出を更に一層多くする必要がある。此の為に蚕糸業者も絹業者も強く協力団結し、行政試験研究教育等の関係各機関と共に官民一致、總力を挙げて蚕糸業の目下の窮状打開のみならず将来の繁栄実現に努力せねばならぬ。茲に於て強力なる日本蚕糸絹業協会を創立し、日本シルク・センターを設置して、生糸の輸出を図ると共に更に一層強く絹による輸出増進を期せんとするものである。

理 由

◎繭は4千万貫生糸は40万俵内外が先づ限界と思われる。

日本の生糸生産は戦前最高73万俵、輸出55万俵もあつたが戦後は最高(1955)31万俵、輸出11万俵(輸絹を含む)で、昨年(1956)の生産は29万5千俵である。

養蚕は人口食糧問題や、果樹及び特用作物の栽培、其の他各種農業事情を考慮すれば、今後は繭の主産地岐阜、甲信越以東の関東、東北地方となり、九州、四国、中国、近畿東海道等には特殊な山間地帯に残る程度となるであろう。関東、東北、甲信越に於てさえ年々リンゴ、ブドウ等の果樹其の他によつて、桑園は喰われているが、それでも之等の地方で養蚕が他の作物に比し有利と考えられる地域では尚桑園が幾分殖えつゝある。

農家の労働報酬は、単位時間当り50円あるものは有利とさ

れているが、関東の某県養蚕支所の調査では養蚕の労働報酬は37円乃至40円と見られるので、桑園は尚殖えると言われている。

桑園の面積は1955年には4千町歩増えて19万3千町歩となつた。反当收繭量も年々幾分づつ増加の傾向にあるから繭生産額は現在より増産を期待することが出来る。然し諸般の事情を考慮すれば日本の繭の年産額は3千500万貫乃至4千万貫内外、生糸は35万俵乃至40万俵内外までが限界かと思われる。

然し、此の産繭額3千500万貫乃至4千万貫内外は他に之に代る適当な農産物が容易に見当らぬ現在では日本農業経営に欠くことの出来ぬ必要数量である。

◎製糸業は儲からぬ。

製糸業界では1956年、25工場が閉鎖された。原料と製糸設備の不均衡の為、採算不良と言うのが主な原因で、片倉、那尾、鐘紡等の大製糸の工場が多い。

然し繰糸機は、従来の多糸機が漸次、自動繰糸機に置き替へられつつある。

自動繰糸機は多糸機に比し2.5乃至3倍の原料を消化する。従つて現在唱えられている三割の設備制限が出来たとしても、或は又、繭が幾分増産されても、設備と原料の不均衡が解消するとは考えられぬ。設備と原料の不均衡が解消されぬ限り、たとえ調整組合が出来ても、又、蚕糸業法が改正されても、製糸業者は今後も常に売手市場で割高な原料繭の仕入れを余儀なくされる立場にある。而も、製糸業は常に化学繊維や合成繊維及び中共生糸と言う強敵に脅かされ乍ら、繭糸価格安定法による最高、最低価格で縛られ、海外機業家の採算に合う値段で生糸を売らねばならぬ現状である。

これでは、生糸を海外に売る限り、製糸業者は、永久に経営が楽になる時期に遭遇することは出来ぬであろう。

◎中共生糸は利用すべきである。

中共生糸は、品質も良く価格も日本生糸より安いと言われる。日本が世界に生糸で売るとは、此の中共生糸と真正面から競争することである。

中共は第二次5か年計画で1962年迄に生糸年20万俵の輸出を期している。

19世紀以来、生糸生産の歴史は仏蘭西、伊太利、日本と推移した。日本は今日尚、生糸供給国として世界の第1位を誇つているが、養蚕は今後中共、印度及びアジア各国へと、漸次低開発の農業国に推移する傾向にある。

此の大勢に抗して、日本が今後生糸に就いて、中共と競争することは決して策の得たものではない。

日本は中共の生糸と競争するでなくむしろ日本で生糸を消化して、中共蚕糸業と提携協調すべきである。

◎生糸は絹及加工品として輸出せねばならぬ。

此処に於て、日本は、安政開港以来100年に亘る「生糸で

輸出する蚕糸政策」を「絹及其の加工品で輸出する方針」に、速に改め絹織物の製造及其の加工業が進歩発展して万一原料が国内生産系で不足する場合は、中共生糸も或はアジア各国に生産される生糸も之を輸入して加工し、「日本の絹」として世界各国に輸出することを企図すべきである。生糸は今迄「輸出生糸の製造」と称し専ら輸出するものという概念で製造されたが、今後は日本の絹業の原料として使用することを前望として製造し、絹織物及其の加工品を世界に輸出して外貨をかせぐと言う蚕糸絹業を速に確立すべきである。

◎絹及加工品の輸出には研究と努力が要る。

絹織物及其の加工品を世界に売ることが、センス、織柄、染色、仕上等の海外の嗜好に合致することが仲々困難だと言われる。素より困難である。然し、今日迄の困難を口にするものはあつたが、此困難を克服し日本の絹の販路拡張に真剣に取り組んで努力したものは、日本の蚕糸業界に幾人あるだろう。

今迄日本の輸絹は、唯海外に「売れるから作る」或は「売れるのを待つて作る」と言うのが実情で、自ら海外の流行を調査研究し、或は、海外に売れる流行を創造して売ると言う積極的な市場操作によつて、売られたものでなく、手も出さずに坐つて「売れるものを作つて売る」と言う実に消極退嬰的な輸絹である。

もつと積極的に、日本から出る蚕糸類は「絹織物及び其の加工品で売る」「生糸は先方の注文があつた際輸出してやる」と言う政策に変らねばならぬ。

◎日本も世界に流行を売り出すがよい。

日本も、流行を創造して世界に売ること官民一致して努力すれば、必ず途は開けると思う。

時々、欧米人と日本人はセンスが違ふから、日本で流行の創造は出来ぬと言う人がある。勿論人種的にセンスの異はあるだろう。然し、出来ぬ筈はない。日本の絹織物や化繊織物が世界各地に売れているのは、永い間紡績業者の不断の調査や研究努力によつて、各国民衆の需要嗜好に応じている証である。独り絹織物に關しては此の点について何等の調査研究もせず、改善に努力も払われていない。努力が足らぬのだ。例えばセンスの問題についても、日本人のみで困難ならば欧米のエキスパートを採用して其の感覚によつて流行を創造し、世界に売り出すことも出来る。殊に絹織物輸出の困難は米国市場のみを目標として論ぜられがちである。素より金持の多い大消費地である米国の嗜好に適する為の研究、努力は必要であるが輸絹は米国のみに限られた訳ではない。

1955年の大蔵省外国貿易年表によると日本の生糸の輸出先は米國を初め22か國であるが、絹織物及其の加工品の輸出先は米國を含む79か國に及んでいる。

之等各国の絹及其の加工品に対する嗜好及流行の傾向を調査、研究、工夫して世界に「日本の絹」を売りさばくことに努力すべきである。

◎各民族の嗜好に合った絹を作つて売れ。

唯、今日迄は安易に売れる欧米の市場のみを考へて、輸出先各国のセンスとか嗜好の研究には全然手が尽きれていない。各国の風習や嗜好を研究調査して夫れ夫れ各民族の嗜好に適合した織染加工を施した絹を各国に輸出することに

日本の関係者が官民總力を挙げて努力すれば、最近の絹に対する全世界の憧れとも見える懇求は真に熾烈なものがあるから、日本に於ては、日本産の生糸、口、中共産の生糸、ハ、アジア各国に生産される生糸、全部を加工輸出しても尚全世界20余億の人々の絹に対する要望を満足させることは到底不可能であろう。

◎今日の伊太利の絹業も努力の結晶である。

伊太利は1952年迄生糸の輸入國でなかつたが、1953年以來自國産生糸の外に日本及中共から生糸を輸入し、絹織物及其の加工品として海外に輸出し、今や欧米、特に、米國に於ては伊太利の絹織物は米、仏の製品を凌ぎ第1等の絶頂を博して取引されている。

此の伊太利の輸絹も最初から米、仏製品に比し優秀であつた訳ではない。織、柄、染色、仕上、センス等について官民挙げて不断の研究努力によつて今日の地位を築いたと言われている。

◎絹で輸出すれば外貨が多く得られる。

大蔵省の1955年外貨貿易年表によれば、生糸と、絹及其の加工品の輸出数量と売上価格の平均は1封当り生糸は1,560円、絹及其の加工品は安い混織品迄言へても2,290円であり、純絹物のみならば2,446円である。1封(16匁)当り換算すれば、生糸は208,000円、混織まで含めたものの平均は305,000円、純絹物のみならば326,000円である。即ち、絹織物及び其の加工品で輸出すれば生糸で輸出するよりも、47%~57%の外貨獲得率が多くなる勘定である。即ち、前記外国貿易年表によると生糸180億円、絹及其の加工品56億円、合計236億円であるから此の生糸を全部絹織物及加工品として輸出すれば、絹業で100億円の的外貨獲得が増えるのであるから、日本の蚕糸絹業界が之れを利用すれば、其の経営も余程ゆとりあるものとなる。

原料を全部國産で自給することが出来て、加工費が欧米より安価である日本の絹織物及其の加工品の原価は、原料の生糸を輸入し高い加工費を払わねばならぬ欧米の絹織物との競争は必ず有利であるから世界各国への輸出が困難な筈はない。

而も其の上、高加工技術が進歩して中共アジア各国から生糸を輸入して織染、加工し、広く世界に売ることとなれば之等アジア各国との友好親善増進に寄与することが出来ることとなる。

◎蚕糸業政策の転換推進を図れ。

然し、長年生糸で輸出していたものを絹及其の加工品で輸出する方針に変更することは仲々容易ではない。此処に於て、私は、官民一致總力を挙げて今日迄の蚕糸業政策の転換を計れと提唱する。其の政策転換の推進母体として

日本蚕糸絹業協会の結成を行い
日本シルクセンターを設置して

之れを根拠として、一切の蚕糸絹業政策の遂行に、充ることを、提唱する。即ち

日本シルクセンターは、

1. 日本の蚕糸絹業の改善発展を推進する總本山であり、
2. 日本の蚕糸絹業の宣伝及販路拡張の根拠であるべきである。

◎政府に対する要請。

政府は、

1. 農業経営及び農村対策
2. 製糸業再建策
3. 中共生糸対策
4. 蚕糸絹業発展策
5. 輸出外貨獲得
6. 絹業発展による就業人員増加
7. アジア各国蚕糸業開発協力による友好親善推進

等諸般の実状を考慮し、速かに強力なる日本蚕糸絹業協会の結成を促し、日本シルク・センターの設置実現を期せられんことを要請する。以上(7957.18)



パナマ運河

碓 氷 茂

ここはクリストバル。

大西洋岸の、パナマ運河への入口にある港です。

12月7日午前5時30分、あふりか丸はこの港へ投錨しました。先着の船が、パナマ運河へ入って行くのを待つためです。

風が吹いています。微風です。熱帯とはいえ、海面を吹く風はやはり涼しい。

甲板の上をブラブラ歩いて見ました。何ともいわれないおだやかな朝です。

見れば船員が甲板上から釣糸を垂れています。たちまち2匹つりあげました。つりあげられた魚は、甲板上で、一生けんめいねています。

「やあ、また鮫か」

といつています。さてこの人は鮫といつたが、魚ではないかとよく見ると、口のあたりからむねへかけて、陸地にいる鮫をつくりです。とくにあの黒い頭から長いひげを見ては鮫といわなければなりません。しかし背中から尾の方を見ると完全に魚です。

わたくしは陸上の川に住む鮫しか見ていませんから、海の鮫を見たのは始めてです。あまりにも陸上の鮫と海の鮫とが違っているのです。

「ははア、これが海の鮫か。頭が鮫でもつぽの方が魚だ」

わたくしはこういつたものです。こうとしかいいようがなかつたからです。

しばらく港内で待っていると、小舟が一そうやって来ました。それに10数人の人間が集っています。黒さんが大部分です。

「この連中は、のために船へ乗りこんだのですか」

と船員にきくと

「運河へかかると水門があつて、それ

が3段になつています。そこでは両側に電車があつて、その電車で船を引張るのです。その仕事をするために黒さんたちが座り込んだのですよ」

と教えてくれました。

7時20分、いよいよあふりか丸はパナマ運河へ向つて進行しました。極めて徐行です。まもなく運河の両岸がせまつて来ました。草木樹木もすべて濃厚な緑です。酷熱の太陽光線をおしげなく吸いとつたきつい緑です。その上、人工の運河の幅がせまいので、運河一帯の草木一さいが、はつきり眼の中へ飛びこんで来ます。名知らぬ熱帯の草木が生え茂っています。熱帯特有の草木です。時折りバナナの樹などが交つて顔を出して見せません。名知らぬ小鳥が飛んでいます。

船は両側の電車にひつばられて、第1水門へ入ります。船が入つてしまうと後方の水門が、徐々に閉ざされます。すると船の底の方から水がもくもくと盛りあがつて来て、船はだんだん高く押しあげられ、第2の水門へ達すると水門が開かれます。そしてまた両側の電車が、船を第2水門の奥深く引つ張つて行きます。船が奥へ引つ張り込まれると、後方の水門がとざされます。また水が船の底からもくもくと盛りあがつて来ます。そして船が次の水門の水の高さに押しあげられます。この押しあげられる時間は、それぞれ15分ぐらいのものでしょうか。さて押しあげられるとまた電車が船を引つ張つて第3の水門の奥へ船を引つ張つて行きます。

このようにろたび船は押しあげられ押しあげられして、湖上へ出ました。これから潮水を航行するのです。海水面から湖水面までの高さは、30米あるそうです。

湖水へ出たばかりのところ、湖水の水が増水したときには、自然に水を噴き出すために別の水門が出来ています。こうして、湖水の水量をいつも調節しているのです。

このようにして船は、湖上へ浮びあがつたのですが、この仕事に従事している人間は、殆んど黒さんです。黒さんならぬ白人の労働者姿も見えましたが、それは極く少数に過ぎません。

さてこのガツン湖ですが、これはまた

大きな湖水です。それも自然の湖水ではなく、このパナマ運河をつくるために人工的につくつた湖水なのです。人工の湖水としては、素晴らしく大きなものです。入江がいくつもいくつもありますし、小島も数えきれないほど沢山あります。ですから、至るところに標識がたてられています。船が他の入江へ迷いこまないようにするためです。あるいは湖水の中にブイが浮んでいて、船はそのブイとブイとの間を通つて行きます。浅瀬の存在を教えているためのブイです。

わたくしは、このパナマ運河を通過し終るまで、甲板上へ出て、あたりの景色をながめていました。時々水鳥が湖面をわたつて行きます。水鳥でない鳥も飛んでいます。太陽の光線は、いよいよきつくと、キラキラ輝いています。草木の緑がその強い光線を強く反射して、眼が痛みます。じつと1か所に見入つていると、しぜんと眼がつかれて来ます。仕方がないからわたくしは、サングラスをかけました。しかしそれでもまた、1か所を見つめてみると、眼がクラクラいたします。クリストバルの港を出て、運河へかかり、4時間ほどたつたあと、太平洋側からやつて来た船と、湖水上で出あいました。運河の通過時間が8時間ですからこの出逢つたところが、ちょうど運河の中ほどと見てよしいでしょう。

何しろ狭い2隻の船が漸く通るほどの運河ですから、向うから来た船は、こちらの船と、スレスレに通つて行きます。向うの船はまる見えです。もちろんこちらの船も向うからは丸見えに相違ありません。

こちらで手を振ると、向う側の船でもにつこり笑つて手を振ります。どこの船かわかりませんが、こうして世界中の船が、この運河を通つて行くのです。

湖水がつまると人工の掘り割りです。この掘り割りの中でもいくつかの船に出あいました。

このようにして船は太平洋岸の水門へ到着しました。第1の水門では、湖水面にある後方の水門がとざされて、水がはき出されると船は1段下ります。そうして3段下つて太平洋岸の海上へ達しました。

(10頁中段に続く)

泥 を 吐 く

出 野 正 雄

水い間矢立に筆を仕舞い込んでいた。今その墨壺に数滴の水を垂らし禿筆を紙めてみた。信州を去つて20年を経た此の頃私達の学校は無くなつてその跡へ大学が設けられている。而もそれは総合大学の一学部であるという。千曲会も残つていて送られて来る名簿などを見ると私たちが在学中きつそうと学校に乗り込んで来て後輩たる学生を頗る啓蒙して呉れた先輩の中には亡くなつた人も多し、健在の人でも隠退されたのか、たゞ住所だけしか書いてないのが次第に多くなつていようだ。新しい人によつて押し上げられたものであろう。私は永い外地の生活を戦火に追いまくられ、はげしい革命の嵐を身をもつて体験し、ゆくりなくも故山に生還したが、ふと後をふりかえつてみると、もう先輩より後進の数がいつの間にか多くなつていて「先輩」と呼ばれる場合の方が多のである。自動的にそうなつたので、これは至極当たり前のことであるが其は驚いている。今、戦後

(次行へ)

(9頁より続く)

この太平洋岸の水門のあたりに、からすのような色の、しかも尾の長い鳥が沢山いました。この船へもやつて来て、グリーン針金へとまつたりなどしました。色こそ真黒ですが、上品なきれいな鳥です。なおこの鳥よりはずつと小さくて、足の長い、シヤンに見える小鳥も沢山いました。

船はついに、太平洋から大西洋へ運ばれて来ました。時計は午後2時半を指していました。太平洋側の港をバルボアと呼んでいます。このバルボアもクリストバルも、パナマ運河専用の港でありまして、アメリカ合衆国がパナマ共和国から借り入れているのだそうです。

バルボアと同じ海に相並んでパナマ國の首都パナマ港があります。パナマ港はパナマ國第1の港になつていますが、乗客や積荷の必要のないあふりか丸は、パナマ港へは碇泊しないで、一路サンフランシスコへ向いました。

こうして全長44マイルのパナマ運河を通過したのです。

終り。

の公務に従事しつつ、冷飯を喰つているのであるが、それはどうでもよい。毎日の仕事を通じて考えてみると、もう昔のように先輩は後輩を無条件に引き寄せ、後輩は文句なしに先輩に追隨して一つの学閥をつくることに疲れきつていたといふようなことは今は通用しないようだ。或る場合には極端に排他的な態度をとつていたこともあつた。比較的融通の利かない蚕糸業界、而もそこで技術を一枚看板の売り物にしていただけに深さは如何にも深かつたであろうが、その幅は随分狭いものであつたといふ得ると思う。盗人三分の道理で、そうはいうものゝ或る場合には排他的学閥根性にもいさゝかの功績はあつた筈である。学校を出さえすれば、よほどのものでない限り学校の推薦で先輩に渡りがつき然るべきところに就職することが出来たのであつて洵に有難く、平穩無事、安泰の限りであつた。お世話になります—といつて先輩のところに草鞋を脱いで勝手なことを遠慮なくやらせて貰つたし、先輩も亦、何かとよく面倒を見てくれたものであつた。今から思えば一つの義理人情があつたようにも見えるのである。しかし、今の学生諸君は狭い門をうまくぐりぬけることが出来ても、そうはいかないだろう。おどろく程の大学が出来てその数を簡単に勘定することは出来ない程であるから、そこから出て来て職をもとめるものゝ数などはどれ程であろうか。そんなのが、それぞれ好き勝手に閥をつくつていようものなら、一つの職場で2人か3人の閥が無数に出来ることになり、それはもう閥などというものはそこには存在しないわけである。先輩がせをまともを受けその風しにも居らなければならないという宿命からは解放されるかわりに、1人1人が自らの道を拓いてゆかなければならない。おまけに世の中はせち辛いこと御存知の通りであつて、庶民の生活は一般に苦しい。その苦しい生活をどうして切り抜けてゆくか。大きな戦争をやつて、どん底に突き落されたものが両手を土について齒をくいしばり起き上ろうとする苦しみは、永い体験を売り物にしていた諸先輩といえども、これは初めての体験であつたと思う。戦後10年。日本大

いに復興したりというけれども、昔初任給4,500円の振り出し時代の方がどれほどよかつたか、という人がある。端的に現在のゆたかならざる生活を歎いているのであろう。そういう時に、千曲会の運営を考えてみると、もう昔のようなやり方を今からでも遅くはないから検討してみ必要があるのではないか。如何にして財政を確立するか、如何にして卒業生を有効に就職せしめるか、などが当面の問題点であるようだ。忘れられてはならないことは往年の専門学校時代よりも比較にならないほどに広域性を失つていふことである。こういうことに関連して直接に或は間接に論議は相当に出ている。具体的な方策としては香山清和氏、池田正五郎氏らは最大の戦禍を受けられたが、逞しい意欲と熱情をもつて語つて居られるし、唐沢正平氏、桐生義文氏らの寄稿に深く敬意を払い、千曲会の新しい運営にはこれら貴重な先輩の声が十分反映するよう配慮せられたいものだと思う。また湯川秀夫氏は愈々精力的に遠くアマゾンのはとりへ事業を興されるという。敬服のほかは心から大成を祈念している。嘗て滿洲で働き、滿洲を旅行した同窓で湯川氏のお世話にならぬ人はない。私も亦その1人であつて御無沙汰こそしているが氏に対する恩義は終生忘却しうるものではない。戦後明状し難い混乱の中を最後まで安東に踏み止まり同窓、部下の面倒を見られたし、九州大学から公主嶺農試へ来られた場長満田隆一氏の悲惨な臨終をあれほどまでに心を碎き手をつくされたことなどは何ものにもまさる氏の人に対する誠心であつたと思う。千曲会としても大先輩たる会員の手で南米に一つの白い石が打たれることになる。ここに大きな目をつくることは雄渾な一つの大事業であると言えよう。希くは働く後輩が氏に続きこの事業の強い担い手が存分の成果を挙げられるよう大きな期待をしたいと思う。私自身は農林省から京都府に移り今なお郷里に極度の逼塞をしていて、いそいそと筆を執ることを忘れていたが仕合せにも健康にだけは頗る恵まれてゐる。そこで今年こそは大きく転廻したいと思つている。どうか限りなきお引立を蒙り度いものである。

終り。

アウガスチヌ、桐生義文君の死

— 藁 —

12月15日の午前10時、札幌通産局の岡田幸一君から電話で「桐生サン」のことについて知っているか、とのこと、何かあつたのかと聞くと昨夜急に亡くなつたと云う話である。

桐生君を最後に見舞つたのは今年10月の始め、約半年振りて逢つた同君はその前の時よりも顔色も良く、声も大きく、「早く手術出来るようになりたい」と云つて居た。いわばその位の元気であつて病人らしい弱は全然なく、久し振りで1時間余りも文字通り談笑したのが僕の最後の想い出となつた訳である。

僕は元来「アマノジャク」であつて千曲時報に私人の消息が登載されることを好まない。然し桐生君は本誌9月号に登載された「ベツト上の計画」によつても知られる通り千曲会意識の強固さに於いて抜群であり、君程千曲会を愛した人間は少く、「模範的千曲会員」と云う「言葉」があるとすれば君は数少い？その会員中でもAクラスに属する人間だと云うことが出来るし、君の為ならば若干の誌面を割いても良いと思われるので敢えてこの筆を執る。

桐生君は満洲時代奉天の某部隊の青年将校であつたが、併せて満洲千曲会の青年将校でもあり、僕等当時そろそろ中年を迎えようとするグラ幹達が大いに振り廻された記憶を持つ同時にその記憶は当時の満洲千曲会員の軒昂たる意気と、団結と、親愛に繋がることを懐しく思ふ。

君は日本の歴史が大きく転換した終戦を此処札幌に迎えた。そして君が中心となり、推進力となつて千曲会の北海道支部が誕生した。支部会員の幾人かは君の斡旋尽力によつてこの地に職場を得たものである。

桐生君は満洲時代、部隊を背景として同地の繊維行政、繊維産業の推進に大活躍した。伝えるところによると終戦前後の北海道の繊維産業界に於ても同様の活躍をしたとのことである。

ある。

君は青年将校であつた。いわば行動派であり、実行力の人であつた。そして君の一生を通じて青年将校的であつたと評言しても云い過ぎではないと思う。

桐生君はその最後の10年間を文字通り闘病生活に終始した。その間一貫して明朗であり、希望を持ち、友を愛し、人生を肯定して生き続けた。このことは本誌11月号の同君の療養雑詠(北斗洋々)が一番はつきり示していると思う。このような生き方はそう誰にでも出来るものではない。私は心から良き友を失つたことを哀しむ。然し私は愚痴や練り言を云わまいと思ふ。君は僕とのながい交友に於いて一言もそうしたことを云わなかつた。僕はそれに倣わなければならない。

桐生君の直接の死因は咳血、窒息死と云うことである。然し剖検した医師の証言によれば両肺共悉く犯されていて何れにしても余命は少かつたとのことである。死顔は美しく文字通り眠るが如くであつた。

葬儀に列席したものは極めて僅か、千曲会員としては倉田照子、本間圃夫、岡田幸一の三氏、当日は筆者も風邪をこじらせて欠席、僅かに拙妻が列席したのみ、最後の10年を病窓に過したためとは云え、あの賑やかなことの好きな桐生君に対してはまことに濟なく思う。

霊名アウガスチヌは死の枕頭に知つたもの、此処に誌して在天の霊を祝福し、千曲会辱知の各位にお知らせする。

附記、桐生君10年の闘病生活を真に後顧の患なからしめたものは愚痴、泣き言一つとして云わず病夫とる兒を抱えて敢然として生活戦線を守つた賢夫人静江さんの功によること附記しなければならない。お宅は札幌市北七条西八丁目、八巻方、(石狩原頭、埋骨式を終えた当日、12月27日記)

未 滞 納 会 費 納 入 の 御 願 い

先月は去る總會の要請に従い、各支会別の会費納入成績の集計に基きまして、先ず低率の支会(先月号掲載)に格段の御手配を御願ひしました。

本月又くどいようであります、会計年度の終期でありますので、未納或は滞納の会員各位には、この際御工面下され、支会責任者を経て(支会内で連絡のない会員は本部直轄も可)納入下さる様特に御願ひいたします。

追而 支会取まとめの場合は納入総額の3割を支会経費に交付することは従前通りであります。

尚、貴殿の未滞納会費は下記の如くであります。この際分割納入でも結構ですから御願ひいたします。

各 位

社団法人千曲会

理事長 野口新太郎

殿 未 滞 納 額 内 訳

| | 昭和28年度迄 | 昭和29年度 | 昭和30年度 | 昭和31年度 | 合 計 |
|---------|---------|--------|--------|--------|-----|
| 未 納 金 額 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 |

蚕糸纖維化学最近の研究

書

評

レオロジーの基礎理論

信州大学繊維学部教授工学博士

柳沢延房氏 訳

鉛筆、塑性粘土の塊水の3物質を卓上におとすと、これらの物の卓上に達する迄の挙動はニュートンの第2法則で説明ができる。卓上に達すると、鉛筆は弾力によつてはねかえり粘土はその場にじつとして扁平に変形し、水は卓上を流れて拡がる。このような異つた挙動を従来の力学はうまく説明できなかつた。これらの挙動を巧みに説明することのできる学問が「レオロジー(流動学)」である。レオロジーは物理学の中の力学に近い1分科で、欧米では3~40年前から発達し、繊維、機械、農業、建築、土木、医学、食物、印刷等あらゆる分野で広く応用されその価値が認められている。わが国では最近ようやくこの学問が研究や応用の方面に用いられ始めてきた。

柳沢教授はこの方面のわが国に有力な研究者の1人として以前から研究に應用されていたが今回、斯界の権威、M. Reiner氏の名著書“Deformation and Flow”(An Elementary Introduction to Theoretical Rheology)を完訳され発刊された。この方面の本邦最初の単行本としてその意義は非常に深く、またわれわれが久しく待望していた本でもある。従来の力学では説明出来ない上述のような諸現象がよどみなく巧妙に説明出来ることは今後これら方面の研究に大きな光明をあたえるものであろう。またそれだけに読者にはいろいろと目新しい熟語が出てき、また難解さも感じるであろう、しかし従来の力学を理解できる人々には高級ではあるが極めて好個の文献といえる。繊維、機械、農学その他の方面で最も新しい、しかも筋金の入った研究を進め、また応用分野を開拓していこうと志す向学の諸兄には是非座右にそなえ熟読していただきたい〔因に発行所、東京コロナ社、定価650円、地方価660円(荻原)〕

節足動物の休眠生理

A. D. LEEES 著

The physiology of Diapause in Arthropods ; 1~151P.
(1955)

本書はケンブリッジ大学の実験生物学シリーズのNo.4として発行されたもので、すでにNo.1は伊藤智夫氏が訳出されている。(昆虫の変態生理)のでご承知のことと思う。著者リーズ氏はハダニの生態の研究者として有名で、本書は節足動物といえ昆虫の休眠性がその主たる対象であつて、われわれに好箇の資料を与えている。とくに休眠生理の先駆者として、日本人学者の名が文中に頻出するのは、心づよくまたたのもしい限りである(外山・木暮・田中・福田・渡辺・永友・小泉など)。カイコの休眠性については、第3章に1項が設けられて詳述されている。生物なかんずく、体型の小さい昆虫の生活は、外的因子の作用によつて支配される。休眠性は昆虫が不良な環境に遭遇するときに、発現される適応形態と考えられるので、その機構の中に、少くとも進化的な種存続因子が含まれていなければならないことになる。これをつきつめてゆくことによつて、昆虫の生態、生理の実態が把握され、個体的な、また群集的な週期現象もおのずから解明されるものと思う。

今や休眠のカラクリは、その本体といわれる生長促進ホルモンの抽出によつて、バクロされ、一大飛躍をとげようとしている。この書は休眠性とその現象の追究に関する従来の研究を300にあまるほう大な文献を駆使してあますところなく論述している。

生物・蚕学などに関係するものにとつて必読の書と思う。
・価格は丸善扱いで685円で、あまり高い書物ではない。

附記;本書の日本語訳が現在有志によつて行われており、千曲会出版部でも販売の労をとつてもらふことになつてゐる。

一般の方の買い安いように前篇と後篇に分けて出版されるはずである。頒価は1部大体120円(送料30円)ずつとなる。3月末日前篇発行。4月末日後編発行。ご希望の力は出版部に予約申込みをされたい。(小山長雄)

会 員 の 近 況

上小支会総会から

千曲会上小支会は2月2日別所温泉の観光旅館(蚕31 清水猛氏宅)において行われた、出席者は35名で總會の通知状発送のわりに少かつたが何れも熱心な会員であつた。

井沢会長、野口理事長のあいさつは會の發展についての具体的な点にふれ非常に有益であつた。次いで盛大な懇親會に移つた。

千曲會の總會は年輩のおえら方しか出ないときめて出席を敬遠している若い會員もなきにしも非ずだと思ふが、この會に初めて出席した工藤甲子太(糸32)久保忠夫(紡27)小林恵吾(学別2)川上保夫(学化1)酒井栄一(学蚕1)塚田光行(学別1)の諸氏もアルコールのまわるとつて大先輩との間にわかまつていたモヤモヤしたものもほぐれ調子を合せて議論していた、この様な場面をみて會に出席しないで千曲會の若返りをさけぶより、若い者が進んで出席して内部から若返らせるようにしていかなければならないと痛感された。

宴たけなわとなるや予定の酒も足りなくなり井沢会長、北条副会長、母袋副会長よりそれぞれ追加の酒の寄付があり會の意気はいやが上にもあがつた。のち千曲

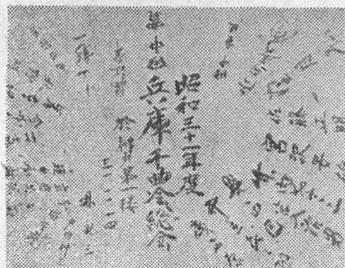


會報編集長の小山先生から寄書の依頼があり、それぞれ達筆で上記の様な署名がしたためられた。

(田中茂男)

兵庫支会便り

昭和31年度兵庫支会總會は、何年か振りで母校より林先生をお迎えして菊薫る11月14日神戸市第一樓に於て開催した。會する者、今は神大に教鞭をとつておられる、奥前教授を始めとし、姫路方面よりも馳せ参じて23名、仲々の盛會となつた。總會は會務報告、會員の動靜報告に続き支會長 浜香三氏(紡3卒)が病氣静養のため郷里但馬に歸られたので、その後任を選出した結果、大塚重蔵氏(糸8卒)の決定をみた。これより宴に移り林先生より母校の近況をお話願ひ、久方振りに



昔話、思出唄に花を咲かせた。林先生を囲んだ蚕3回の立岩氏、糸4回の須田氏、糸8回の 大塚新會長等の燦然たる頭盧は光輝ある母校の歴史を象徴するようで若い者達にとつても実に頼もしい風景に感じられた。最後に校歌を合唱して印象深き會を終つた。

現在当支會の會員数は60有余名で神戸市という大都會をひかえている割合に會員数は少いのであるが最も多くの會員を擁している生糸検査所を中心として互に連絡を密にし、千曲會發展のため努力している。

どうか全国會員の皆々様御來神の節は当支會にお立寄り下さい。当地名産の牛肉や明石鯛で灘の生一本でも酌み交そうではありませんか。

岸本礼一(紡24)

遠友會春の例会

遠友會は1月3日市内本町 こはま屋支

店に於て焼鳥をかじりながら開かれました。



出席者は次の通りです。

八木誠政先生、小山長雄先生、山崎玲子嬢、小池渥、福島融、平坂忠雄、金井節博、竹内千枝子、小林啓次、蒲生卓磨

昨年の第1回のつどいは小山長雄先生の学位授与祝賀會で、今回は昨年に続く第2回のつどいでした。遠友會は本学出身で生物に興味をもたれる方の横の連絡をとるフリーなつどいで、生物に関する問題を心おきなく話しあうのが目的です。

蚕緑會便り

蚕36回卒業生の第8回目の級會は新春正月2日午後4時より近藤 (Next) にて開かれました。

出席者 押金、大井、小林(俊)、神津、倉沢、坂井、長谷川(聖)、長谷川(良)、湯原及び西山の計10名でした。

その数は僅かながらも学生の頃の思い出や、未來の夢等につき、それからそれへと話は尽きず盛會裡に閉會致しました。

尚明後年度(鬼が笑うかもしれぬが)は10回目につき益々盛大におこなう予定です。(西山記)



本 会 日 誌

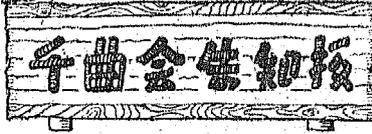
- ◎ 1月28日 安筑千曲会總會みやま荘 (浅間温泉)にて開催、本部より林顧問出席
- ◎ 2月2日 上小千曲会總會別所温泉観光旅館にて開催。本部より倉沢顧問、野口理事長等出席
- ◎ 2月3日 東信千曲教育研究總會、母校にて開催。本部より蒲生顧問、野口理事長等出席

本 会 記 事

- 小林潤美氏(糸16) 科学技術庁参事にならる。
- 桐生義文氏(蚕17) 昭和31年12月14日札幌に於て死亡
- 南沢 清氏(糸9) 昭和32年2月1日東京に於て死亡
- 原 清志氏(蚕9) 上田に於て死亡
本部より桐生、南沢、原氏に対し弔意を表した。

お 願 い

先般御通知申上げました会報連絡員選定の件、至急御通知願います。
各支会長殿 千 曲 会



新年度会費の御知らせ

既に、会報1月号の總會記事によつて御承知のこと、と思いますが32年度から会費は、金300円に決定しました。念のため重ねて御知らせいたします。

尚、支会で責任者が取まとめて納入する場合は、300円に対し、100円の支会経費を交付します。

総 会 記 事 訂 正

先月号会報の總會記事追加中(9頁)に訂正事項がありましたので御承知願います。

定款変更について

役員改選について全国各支会長を評議員に当てるように定款を変更せよとの意見に対し、これは態々定款を変えなくとも運用によつてその趣旨に添い得るからこのことを記録にとめておくことになった。

訂 正

前号掲載の評議員浜香三(兵庫)とあるを大塚重蔵(兵庫)に訂正いたします

窪田先生退官記念資金の切近し

先に御依頼申上げました窪田先生退官記念資金募集につきましては、既報のように多数御応募下さっておりますが、その後も引続き御出資下さる方が多数おりますので、切期日を4月末日まで延期致します。出資御希望の方で未だ御送金のない方々には至急御送附下さいませようお願い申し上げます。

△出資要領

1. 出資金 1口 200円 口数は御自由に願います。
2. 送金宛先 当学部 千曲会 窪田先生退官記念会
(振替口座：東京43341または 長野6243を御利用下さい)
3. 締 切 昭和32年4月末日
4. その他 記念品または資金の贈呈方法は発起人にお任せ願います。

2月15日

窪田先生退官記念会発起人代表

林 貞 三
柳 沢 延 房
荻 原 清 治

ちくまクイズ解答

第5回解答 5

(50しゅうねんきねん
じぎょう)

正解者12の中抽せんの結果、下記の方々が当せんいたしました。

清 水 洸
竹 田 寛
下 条 隆 一

期日および解答者の関係で、クイズは今回をもつて一時中止いたします。

伊藤武男監修

予約の切近し

『絹糸の構造』

予約特価 1200円 千80

(定価 / 1300円 千80)

予約の切期日 3月31日

(限定版につき予約期限以降の御注文は御容赦下さい)

上田市常入 信大繊維学部内

千曲会出版部 (振替) 東京43341
長野 6243

母 校 便 り

学生後援会理事会開催さる

去る2月2日母校学生後援会理事会が開かれた。土曜日の午後と云うのに高寿を迎えられて、なおかくしやくだる井上柳梧会長を始め、桜井吉利副会長、遠藤要蔵、太田和夫、細田延一郎、山辺聖、野沢司馬作、蒲生俊興各役員に、母校側からは伊藤学部長、各科主任、補導委員の諸先生や、幹事等が出席された。会議は本年度事業経過の検討から始まり極めて和やかなるも極めて活潑な意見が交された。殊に会費関係については、役員側は高校PTAの会費状況や、鉄道運賃の値上げ案等を参酌されて、極力値上げ方主張すれば、母校側は慎重に扱われるよう要望する等、議論は沸騰したが、結局左記の通り決議され、午後5時一応会議を閉じ、懇親会に移り、午後7時学生後援会と母校との万歳を三唱、盛會裡に散会した。

記

1. 会費値上げについて

通常年会費 本科生、専攻科生、聴講生の父兄600円を1,000円とすること。別科生の父兄250円を500円とすること。
2. 總會開催について
来る5月11日(土)午後2時から開くこと尚同日午前中母校内の参観ができるよう配慮するとともに業界の模様、卒業生の進路(就職状況)等についての講演をすること等も併せて考慮すること。
3. その他
入学式には父兄に会長から学生後援会の模様をよく説明すること。

以上 (中島記)

○卒業式について

3月10日(日)に卒業式は行われる予定

○入学試験について

昭和32年度入学試験は下の日程で行われる。

願書受付 2月16日~3月21日

入学試験 3月23日~25日

(但し別科は26日)

○入学式について

入学式は4月12日(金)に行われる予定

東信千曲教育研究会初總會開催さる

去る1月24日母校会議室で東信千曲教育研究会が誕生以来初めての總會が開かれた。この日は風雪の荒模様の天気であったが、桜井幹事長、新井副幹事長を初め母校からは伊藤学部長、千曲会からは野口理事長、蒲生顧問等の出席を得て会員を併せ約50名の盛大な會議であった。

議事は会員間の連絡、会費徴収や人事等についての突込んで話し合いがあつたが、会費等についても既に半数以上の払込みがあり千曲会本部も顔負けの態であつた。がこうした横の集りが如何に必要であるか、又千曲会の発展の爲にも大いに頑張すべきことである。會議の後、懇親会もあつたが、本總會は極めて有意義に感じられた。(中島記)

Table with columns: 会費 (Fees), 領收 (Receipts), and 未納会費納入者 (Unpaid fees). It lists names and amounts for various members and categories like '昭和31年度会費' and '昭和32年度会費納入者'.

山崎寿氏(蚕14回長野県蚕業試験場松本支場長)農学博士の学位論文通過

かねて九州大学農学部にて提出中の学位論文が2月13日の同学部教授会を通過し、近く農学博士の学位を受領される事になった詳細は次号に掲載する予定。

特別活動資金領収 (2月10日現在)

| | | | | | |
|---------|------------|-------|------------|-------|----------|
| 金1,200円 | 森戸 普(蚕15) | 金500円 | 芳谷 富雄(〃) | 金300円 | 石森 秀(化7) |
| 金900円 | 荻原 行雄(糸20) | 金300円 | 小林 英亮(糸大1) | | |
| 金600円 | 小柳 源一(蚕24) | 金300円 | 赤沼 喜雄(蚕35) | | |

住 所 移 動

| 頁数 | 氏 名 | 卒業回数 | 新 住 所 |
|-----|--------|------|-----------------------------|
| 45 | 齊藤 菊雄 | 蚕 6 | (自宅)前橋市總社町植野580 |
| 48 | 西沢 長夫 | 糸34 | 日本レーヨンK.K. 桐生工場(桐生市広沢町) |
| 48 | 新田 住男 | 糸36 | (自宅)前橋市南曲輪町92 |
| 48 | 堀内 良孝 | 蚕38 | 神楽生糸前橋催青所(前橋市高田町) |
| 51 | 今井 和義 | 学化3 | (自宅)鴻ノ巣市箕田追分 |
| 52 | 大室びでこ | 糸別4 | 埼玉製糸熊谷工場(熊谷市石原) |
| 52 | 木内 更介 | 蚕34 | 日本シルク K.K. (東松山市松山3572) |
| 54 | 田中 律子 | 糸別4 | 埼玉製糸熊谷工場(熊谷市石原) |
| 55 | 中村 利代 | 糸別4 | 全 上 |
| 57 | 森力、男 | 糸27 | 郡是製糸鴻ノ巣工場(鴻ノ巣市) |
| 57 | 矢島隆之助 | 糸17 | 昭栄製糸本庄工場(本庄市) |
| 58 | 大沢 龍市 | 蚕16 | 千葉県社会教育課(千葉市場町教育町内) |
| 59 | 春原 寛 | 学蚕2 | 銚子第五中学校(銚子市) |
| 61 | 荒水 守雄 | 学糸3 | 大山金属製作所(三鷹市牟礼558) |
| 64 | 小口 英一 | 糸12 | 日本シルク K.K. (東京都中央区銀座西2の1) |
| 64 | 小沢周一郎 | 蚕10 | 東京都武蔵野市吉祥寺548 |
| 64 | 川瀬 博史 | 糸31 | 東洋化学工業 K.K. (港区芝田村町2ノ10) |
| 75 | 羽毛田 博 | 学蚕1 | 日通東京支店(住)東京練馬区貫井町545ノ9坂田方) |
| 75 | 萩原 延衛 | 学蚕3 | 三楽酒造 K.K. 川崎工場(東京品川区北品川御殿山) |
| 82 | 横関 源延 | 蚕30 | 水産庁東海区水産研究所(東京都中央区月島3号地) |
| 88 | 関 民雄 | 学糸2 | 海上自衛隊 |
| 100 | 山下 矢之助 | | (住)舞鶴市円満寺 |
| 101 | 月岡 弘 | 学化2 | 東洋紡績教養工場(教養市津内石橋) |
| 103 | 香山 金朗 | | 中佐都中学校(浅間町) |
| 107 | 岩田 静男 | 蚕学2 | 白田高校(白田町) |
| 129 | 佐藤 重治 | 農 5 | 小栗那丸子町依田村御岳堂 |
| 142 | 吉沢 直葵 | 学糸4 | 日編製糸 K.K. (篠ノ井町) |
| 143 | 工藤 栄治 | 蚕27 | 蚕種協同組合千曲社(植生町) |

| | | | |
|-----|-------|------|-------------------------------|
| 165 | 滝口 昭夫 | 紡30 | 呉羽紡績 K.K. 大町工場(大町市) |
| 168 | 芦沢 弘文 | 蚕31 | 岡谷塩嶺病院内(岡谷市) |
| 168 | 一之瀬高房 | 農 1 | 農業試験場原村冷害試験地(諏訪郡原村) |
| 174 | 大平 昭人 | 学糸4 | 下伊那郡平岡村満島 |
| 175 | 木下 和夫 | 糸38 | 下伊那郡森木村 |
| 181 | 市村 幹司 | 蚕 4 | 静岡県駿東郡小山町字菅淵 |
| 195 | 松吉 博隆 | 蚕25 | 農林省神戸植物防疫所名古屋支所(名古屋市港区海岸通4の1) |
| 207 | 倉橋 琢而 | 糸10 | 大阪市東淀川区豊里町996 |
| 212 | 岡 弘 | 糸31 | 和歌山県庁農地部耕地課(和歌山市) |
| 218 | 芦谷 鉄郎 | 蚕33后 | 郡是製糸 K.K. 川田乾満場(徳島県麻植郡山川町川田) |
| 237 | 上原 泰正 | 蚕33前 | 東京都神田区 晴耕社(プリント) |

編 集 後 記

- 先月号より一部編集部長が変更し、気持ち新たに本会報の充実を力をつくす覚悟です。従って会員諸氏の御激励の言葉を心よりお待ち申し上げる次第であります。
- 月日の経つのは早いもの。母校から再び螢の光のメロデーが流れるようになりました。繊維産業の振興に、聖なる教職に、或はその他各方面に日夜御奮闘の数多くの同窓諸氏の膝もとに新卒生が送られますが、何分御指導御鞭撻の程お願い申し上げます。
- みず々たる信濃路に春が再びおとずれようとしております。かえりみればあの頃あの時と学生時代を偲べ、卒業してから早何年と指折り数えておられる方もおられる事でしょうが、やつぱり懐かしきは母校の事。同窓会なくて何のおのれのみ。千曲会もこれから色々新しい事業を計画しております。故郷が益々発展するように御援助あらん事を切にお願い致します。
- 記事山積の為未掲載分が多くあり折角の投稿者の意志に反し、まことに申し訳ありませんが順次掲載して参る予定ですからお赦下さい。
- 最後に会員諸氏の御健勝と御奮闘をお祈り致します。

(西山記)

編集理事 田口亮平 編集総務 小山長雄 部員 石川 博 中原 武・清水 周・柳沢幸雄・美齊津利正・西山久雄